



平素は格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

第117期（平成29年4月1日から平成30年3月31日）も第2四半期を終了いたしましたので、連結および単体決算を含め、会社の近況をご報告申し上げます。

代表取締役社長 岩田 裕美

### 当第2四半期の経営成績について

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果等により、景気は緩やかな回復基調が続きました。

建設業界におきましては、設備投資は持ち直し、公共投資も堅調に推移しているものの、労務需給や原材料価格等の動向に注意を要するなど、引き続き厳しい経営環境が続いております。

このような環境のなか、当社および当社連結子会社

#### 企業理念

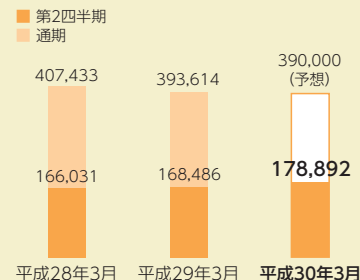
わたしたちは  
確かなものづくりを通して  
豊かな社会の実現に貢献します

#### 行動指針

- 信頼を築く
- 技を磨き、伝える
- 夢をいだき、挑戦する

#### 連結決算ハイライト

##### 売上高（単位:百万円）



(以下「当社グループ」といいます。)は、各社が有する技術の優位性を活かした受注活動やアスファルト合材等の製品販売を強化するとともに、コスト削減や業務の効率化に努めてまいりました。その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は1,788億92百万円(前年同四半期比6.2%増)となりました。一方、利益につきましては、営業利益は147億38百万円(前年同四半期比11.9%減)、経常利益は157億31百万円(前年同四半期比5.8%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は98億3百万円(前年同四半期比2.1%減)となりました。

## 通期の見通しについて

第3四半期以降の経営環境につきましては、雇用・所得環境の改善が続かなかで、各種政策の効果により回復に向かうことが期待されますが、海外経済の不確実性や金融資本市場の変動の影響が、景気を下押しするリスクとして懸念されます。

建設業界におきましては、企業間の熾烈な受注競

## 第117期 連結業績予想

億円 前期比

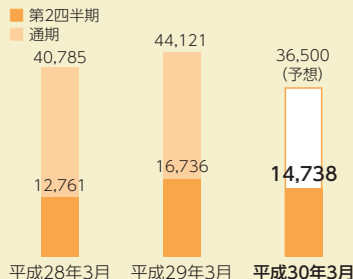
売上高	3,900	-0.9%
営業利益	365	-17.3%
経常利益	380	-17.0%
親会社株主に帰属する当期純利益	235	-17.6%

争、労務需給や原材料価格等の動向に注意を要するなど、業界を取り巻く経営環境は、引き続き厳しい状況が予想されます。

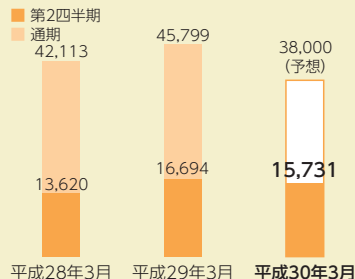
このような環境のなか、当社グループとしましては、技術力の向上、営業力の強化、原材料価格への適切な対応に努めるとともに、生産性の向上とコスト削減を推進してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも格段のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

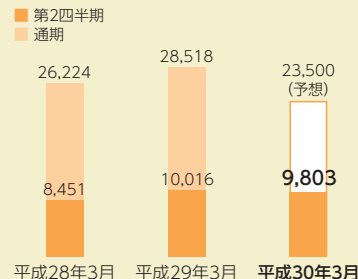
営業利益 (単位:百万円)



経常利益 (単位:百万円)



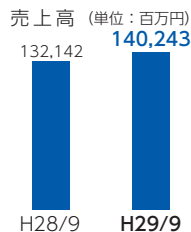
親会社株主に帰属する当期純利益 (単位:百万円)



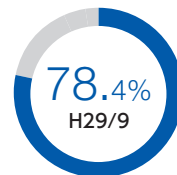
## 事業別の概況

# 建設事業

当社グループは建設業法に基づく国土交通大臣許可を受けた建設業、およびこれに関連する事業を行っています。建設事業は当社グループの主要部門であり、「舗装土木事業」「建築事業」で構成されています。



売上高構成比



### 舗装土木事業



#### 事業内容

1934年の設立以来、人や環境への配慮といった視点から、独自の技術を活かした道路舗装土木事業を行ってきました。近年では、交通量の増加や車両の大型化が進み、道路の維持修繕の重要性が一層高まっています。

売上高

776億59百万円  
前年同期比 4.9%増 ▲

営業利益

81億84百万円  
前年同期比 14.9%減 ▼

### 一般土木事業



#### 事業内容

当社グループは、「土」とのかかわりから培ってきたノウハウを基に、各種土木事業の施工を実施してきました。これからも、自然との融和を図り、大地の有効活用により、ゆとりある快適な環境を創出していきます。

売上高

270億51百万円  
前年同期比 8.4%減 ▼

営業利益

15億89百万円  
前年同期比 15.0%減 ▼

### 建築事業



#### 事業内容

1983年から本格的に建築事業に取り組み、組織力を活かした総合事業に大きな信頼を寄せていただいております。お客様の要望や現場の状況に応じた綿密なコンセプトづくりから施工、メンテナンスまで、あらゆるニーズに満足していただける快適な空間を提供し続けます。

売上高

355億31百万円  
前年同期比 24.5%増 ▲

営業利益

29億49百万円  
前年同期比 36.0%増 ▲



館山自動車道  
アクア管内舗装補修工事



高松自動車道  
引田IC～三島川之江IC間舗装補修工事



大陽日酸ガス&ウェルディング(株)  
南恩加島新倉庫等建築計画



(仮称) プレサンス京都東九条河西町  
新築工事

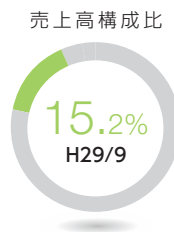
## 主要完成工事

発注者	工事名
首都高速道路株式会社	(修) 上部工補強工事 (鋼床版) 3-202
東日本高速道路株式会社関東支社	館山自動車道 アクア管内舗装補修工事
西日本高速道路株式会社四国支社	高松自動車道 引田IC～三島川之江IC間舗装補修工事
防衛省 北関東防衛局	横田 (26) 管理棟 (614) 新設建築工事
フジパンググループ本社株式会社	株式会社フジデリカ 福岡工場新築工事

## 主要未成工事

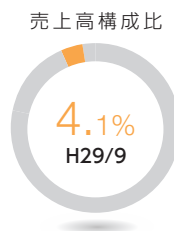
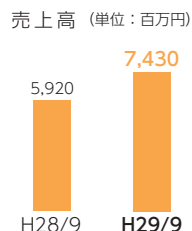
発注者	工事名
東日本高速道路株式会社東北支社	東北中央自動車道 上山舗装工事
成田国際空港株式会社	高速離脱誘導路再編等舗装工事
東日本高速道路株式会社新潟支社	上信越自動車道 上越舗装工事
西日本高速道路株式会社 関西支社	新名神高速道路 神戸舗装工事
東京電設サービス株式会社	いわき太陽光発電所建設工事 (その1)

製造・販売事業



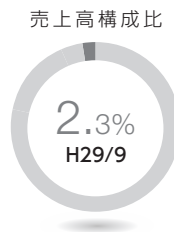
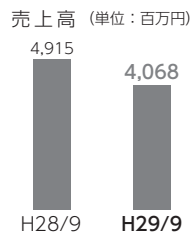
**事業内容** 道路を舗装するために最も多く使用されている材料がアスファルト合材です。当社グループは全国約160ヶ所にアスファルト合材の供給基地を持ち、当社グループの工事で使用するだけでなく、ほかのお客様にも販売しています。また、循環型社会形成のために、舗装廃材のリサイクルシステムを構築し、アスファルト舗装廃材を受け入れて、当社グループ工場で再生・再利用しています。

開発事業



**事業内容** 当社グループのネットワークとノウハウを生かし、デベロッパーとして安心・快適な街づくりに取り組んでいます。宅地開発・建物分譲事業、マンション分譲事業（ル・サンク「Le Cinq」シリーズ）、オリジナル住宅事業（グラチア「GRATIEA」シリーズ）、不動産賃貸事業（アーバス「ABAS」シリーズ）などを展開し、都心部や中核都市で、安心・快適に過ごせる商品を提供しています。

その他





## NIPPOの技術開発力が創出した一步先行く道づくり

# 地球温暖化対策に貢献するNIPPOの技術

夏季の炎天下、アスリートや観客を足元からサポート

### 遮熱性舗装がマラソン競技などに積極的に採用

公道を使用して行われる東京五輪2020のマラソン競技などは、夏季の暑さ対策が喫緊の課題となっています。その解決策として、舗装面の路面温度上昇を抑制する「保水性舗装」や「遮熱性舗装」（NIPPOが開発）が注目されています。

国土交通省では、散水等によらず効果が持続する遮熱性舗装を積極的に採用し、保水性舗装は継続的に散水が実施できる地区に選択可能と位置づけました。一方、東京都は、2020年までに都道約136kmを遮熱性舗装・保水性舗装にする計画です。都道は路面補修工事に合わせて整備するとともに、区市道には都費を補助しています。平成28年度末時点で、遮熱性舗装は約86kmを施工済みで、今年度以降、保水性舗装と合わせ毎年10km施工していくことになっています。



施工完了時の皇居前広場の様子



国道50号での施工風景

### 道路地下に貯留浸透槽を設置して雨水流出抑制対策の一助に

### 道路冠水対策工法「アクアロード®」を事業展開

近年、局地的豪雨（ゲリラ豪雨）や大型台風の発生・上陸が頻発しており、道路冠水被害が都市部を中心に発生し、その対策が急務になっています。しかし、新たな雨水流出抑制施設を設置することは、用地確保の観点から困難です。

こうした背景を受けて、都市部の車道下に樹脂製の雨水貯留浸透槽を構築することで、冠水被害を抑制する「アクアロード®」を事業展開しました。現在、冠水多発道路やアンダーパス、地下鉄や地下道の出入口などへの採用を目指し営業活動に注力しています。



アクアロード® 製品形状

#### 特長

- 空隙率が大きく、効率的に貯留施設を構築可能
- 軽量で取り扱いやすく、安全な施工が可能
- リサイクル材を8割使用するなど環境への負荷が小さい

※「アクアロード®」は積水化成成品工業株の開発・商品名です。